

18
FOR
ADULT ONLY



CLONE ALONE



2031年
6月22日

ん……



…おはようございます
ご主人様



キュクルが狂った

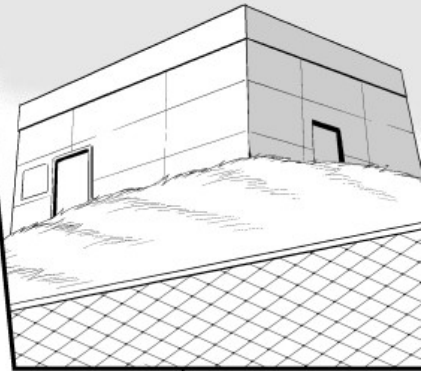


どうかその手で
私を殺してください

俺は河野彰
カノノ アキ

ニューメキシコ州の郊外に
研究所を構え
クローン技術の開発及び
研究に取り組んでいる

その研究過程で出来た副産物が
この獣人型ヒューマノイドだ
名前をキユクルと名付けた



副産物とは言え
キユクルを造っていた期間は
寝食を惜しんで研究に
没頭したもんだ

他人との関わりを
極力避け続けてきた俺でも
独りは寂しかったのかも
知れない

知能は人と同等がそれ以上
生後一週間程で会話が
成立するまでには言葉を
覚えていた

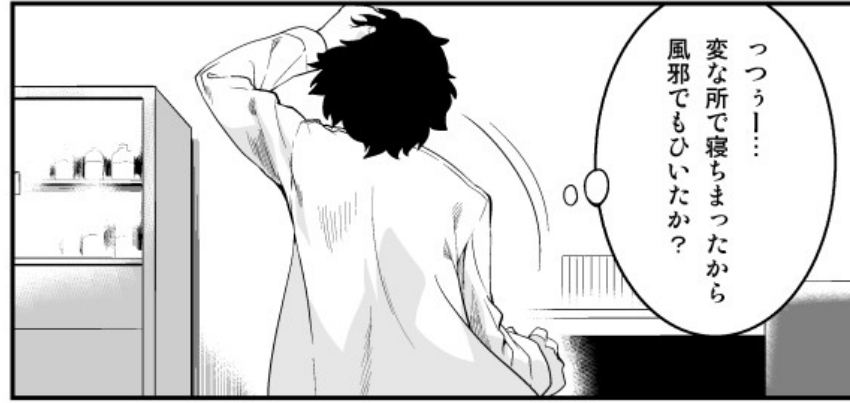
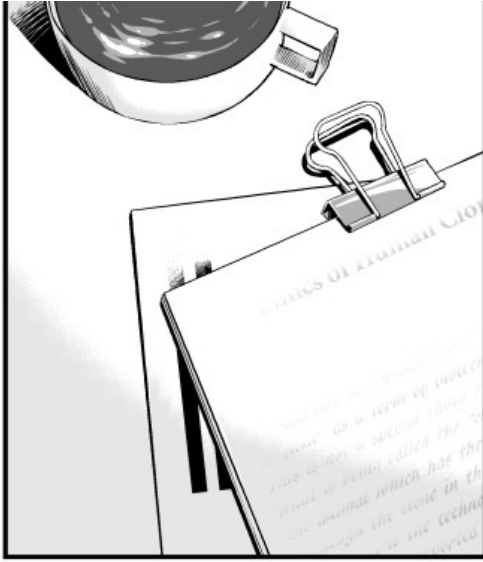
Wow!
ヒゲナガが!!

性格は従順且つ無垢
助手を任せられるまでに成長し
今では良きパートナーとして
俺に仕えて貰っている

そんな聡明な彼女だからこそ
何故こんな事を唐突に言い出したのか
俺には分からなかった

どうしたんだ
キユクル…?





つつー…
変な所で寝ちまったから
風邪でもひいたか？



キュクルの奴、あれから
一度も顔を見せないな

それにしても…



ふう…ちよつと
一息つくか



いきそ…あつ！やつ
ご主人様あ…

んっ…あ

は…ああ…



んうっ…

はっ…



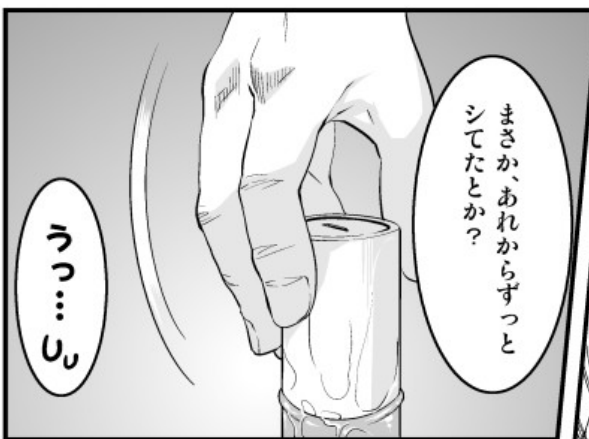
コホン



な、何かな？

あらっ...

ご主人様っ！わうわうっ！



まさか、あれからすっとしてたとか？

うっ...じゅ



ご主人様のバカッバカッバカ

一応ノックはしたんだが...スマン

何で勝手に入ってきてるんですかあああー！



ご主人様...

ずっと研究室に籠って全然構ってくれないし...だから...



もう知らないもん！

うわあぁぁん

うーん 今日是一段と情緒不安定だなあ



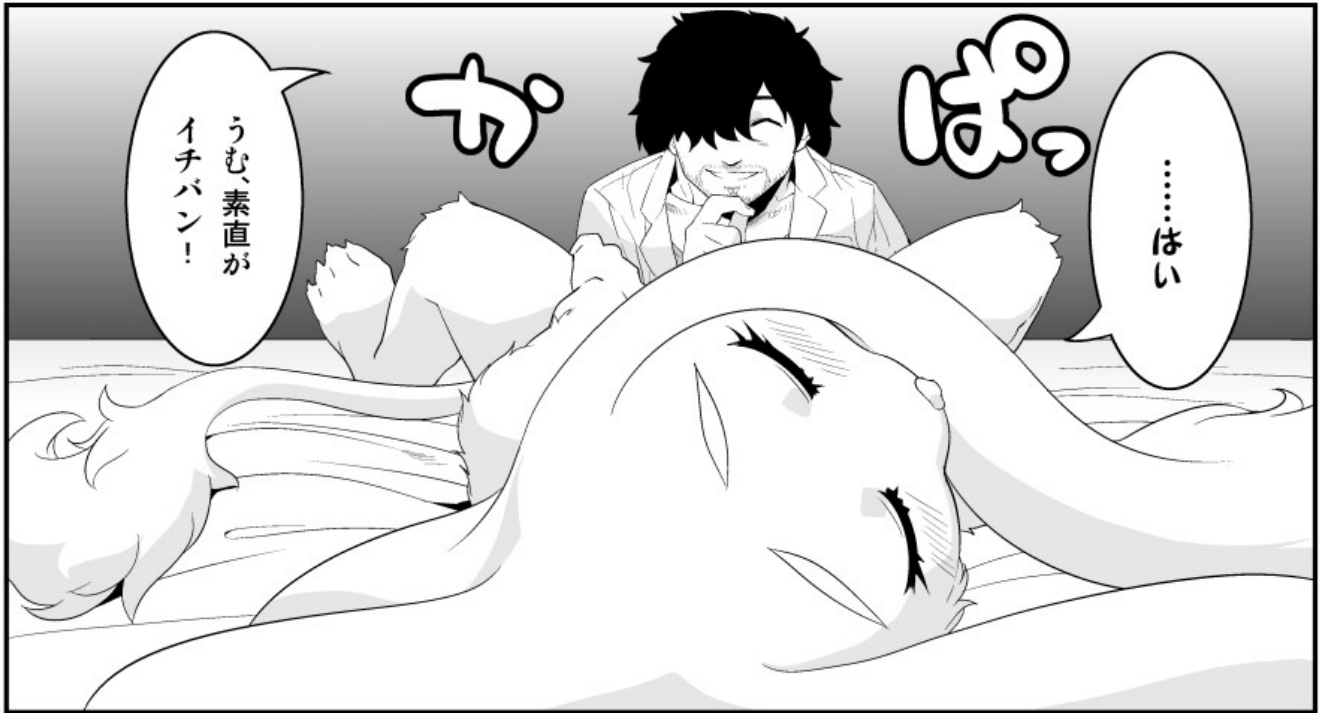
すまなかったよ…
普段から気にかけているつもりでも
どうしても都合の合わない時が出てきて
しまうんだ

葛藤中

ムムムムムムムム

キッ

ほら、脚をひらいて



うむ、素直が
イチバン!

が

ぽ

...はい



それじゃあ入れるぞ



ひゃっ、んあ!

ピッ

よしよし、良い具合に
ほぐれてるな

キッ



やだあっ！もうオモチャはいやああああ！

んぎやあうう！！



カチカチ



…？



やだあ！

い…イクっ！
イクイクううう！！

ホラホラ、いつちやえよ
イクところ見ててやるからさ

だ…めえっ！



さっきまでは好んで
啜え込んでたじゃないか？

だってそれはあ…ご主人様が
んあああっ！

カチカチ
カチカチ





キュクル、お前なあ…



わぶっ!?



私がどれだけ寂しかったか…



ご主人様はぜんぜん知らないクセに…

ぶっー



まゆ、キュクルさん？



イジワルなご主人様にはバツとして

いや、だからそれに関してはすまないとし

しゅわっ

しゅわっ



ご主人様が…ここに
あるの…あっ♡

分かりますよ♡



今日はたっぷり付き合っ
て貰いますから…んんっ♡

しゅわん
しゅわん
しゅわん
しゅわん



ご主人様あ…もっと
もっと感じさせてください
ご主人様の温もりを…

キョクル…



ご主人様のおちんちん
んあっ…すんすん♡

はあっんん

あんっあっ♡

ぬ
ぶっ!!

ずぶっ

しゅわん
しゅわん



ずっと欲しかったの…
ご主人様のおお♡

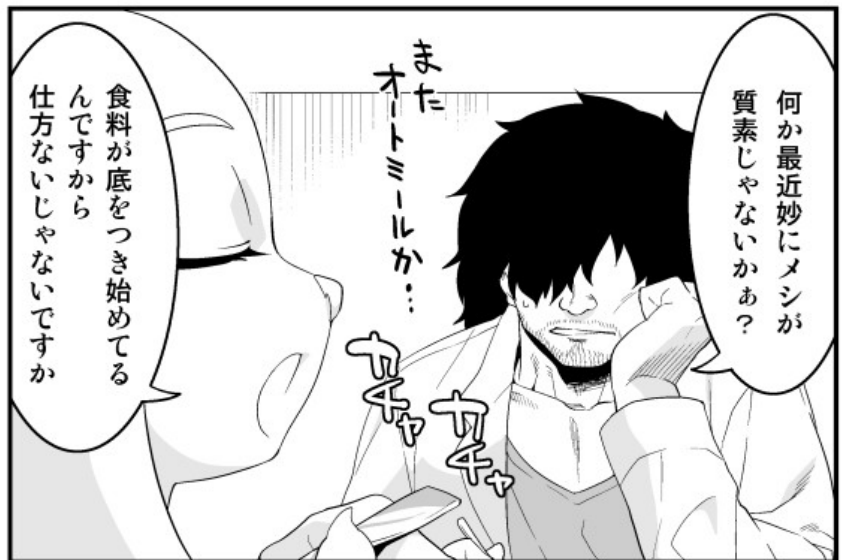
あんっ、いいっ
キモチいいよお♡



あっ…もっ
腫打ちっけいっはねっ
あっ♡

好きっ！
ご主人様の事が
好きなんですっ♡

全部欲しいですっ♡
一滴もごぼしちやいやあ
ご主人しゃまの熱いの
膛内なかにい…♡♡



なあ河野よ
アレがそうだと、例の獣人型
ヒューマノイドってのは？

それがどうした？
用が済んだのなら
お帰り願いたいんだが…

実はうちのラボでよ、その生物が
話題に上がってね
一度相互研究の為に貸しちゃ
貰えねえかなって、な？

断る

あの子はモノじゃない
例えモノ扱いしたとしても
私の大事な作品だ

…あのよオ

理事会がアンタに目を掛けて
るとは言え
俺はアンタが嫌いなんだ

こんな辺鄙な所にラボを
持ちやがって
わざわざ物資を運ばされる身にも
なって欲しいもんだね

……





お前のご主人様が大切なら
大人しく俺について来るんだ



おっと、お前も妙な行動は
起こすんじゃないぞ



アンタは自分のペット一匹
守る事が出来ないん
だからよ

惨めだよなあ
河野よお？







ご主人様？



ご主人様！



は、ハイ
何ですか？

そうだよ…
キュクル…！！



マシユ一の奴がどうなったか
知らないか？

ほら、先日ここにきて
お前を連れ去ろうと
した奴だよ



あ、あの方は…

死にました……



うぁ……ああああ……

……だって……ご主人様が……



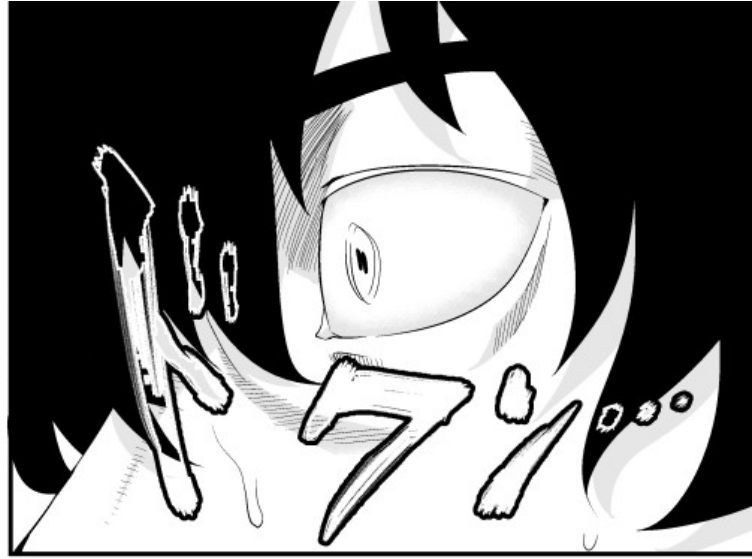
私が殺したんです……

なっ!?



な、何故、そんな事を……

だって!!!

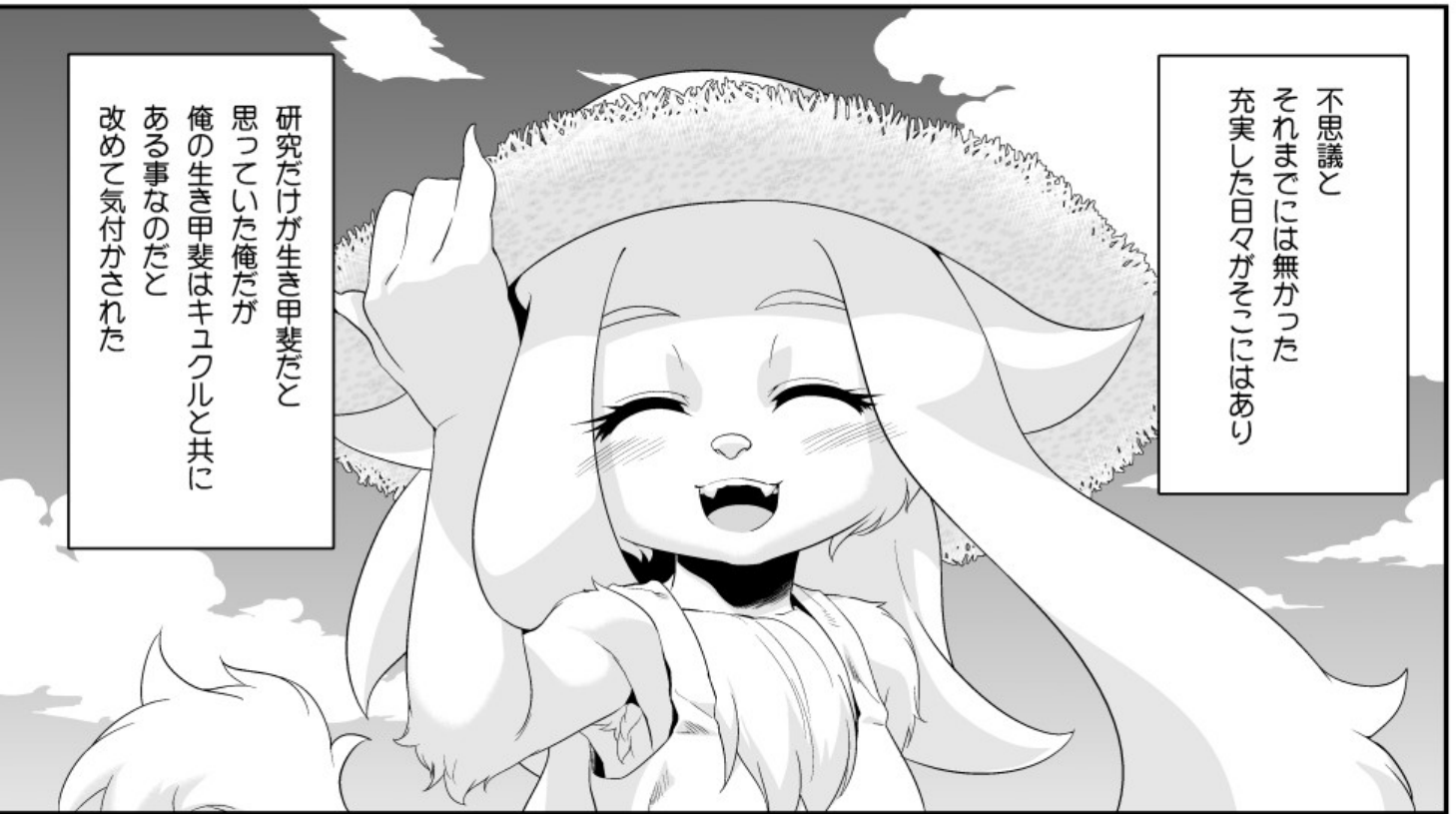




俺は研究を止め、残りの時間を
キユクルの為に使う事にした

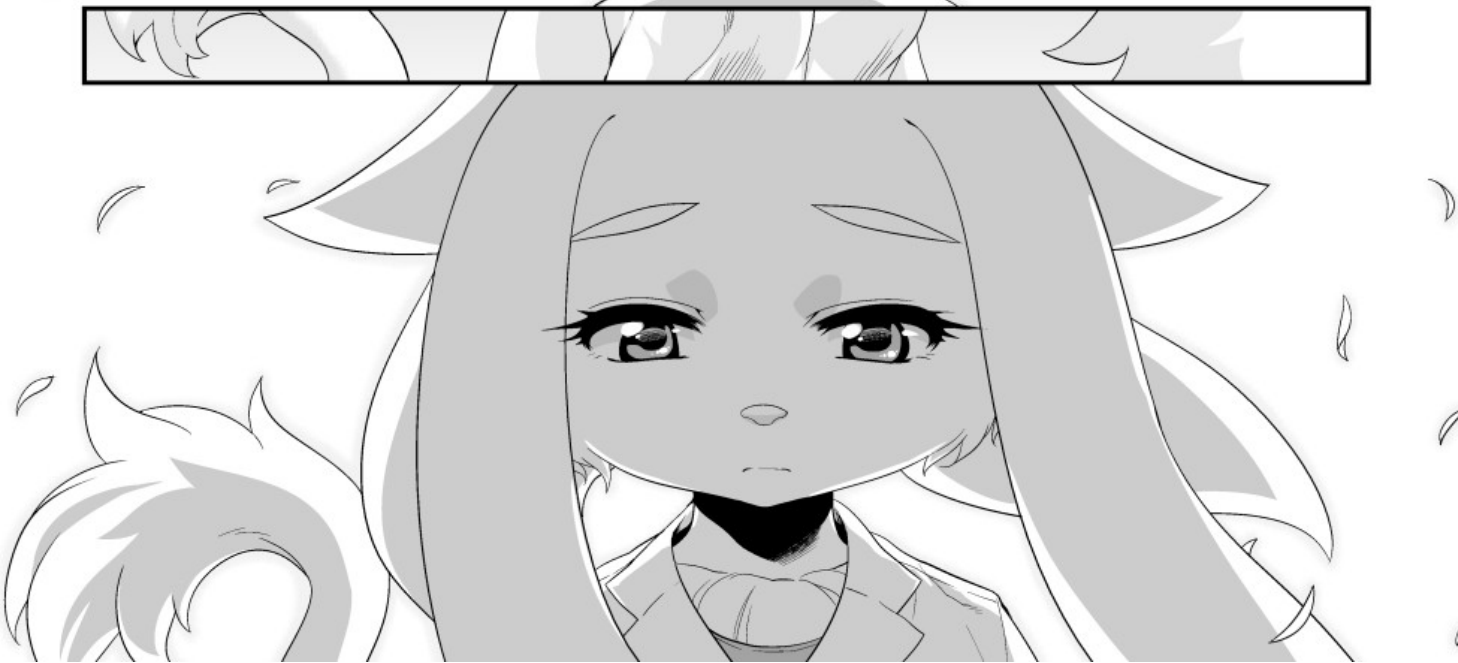


2週間…か



不思議と
それまでには無かった
充実した日々がそこにはあり

研究だけが生き甲斐だと
思っていた俺だが
俺の生き甲斐はキユクルと共に
ある事なのだ
改めて気付かされた



現在、私は
ご主人様が以前在籍していた
研究所で、研究員として
受け入れて貰っています

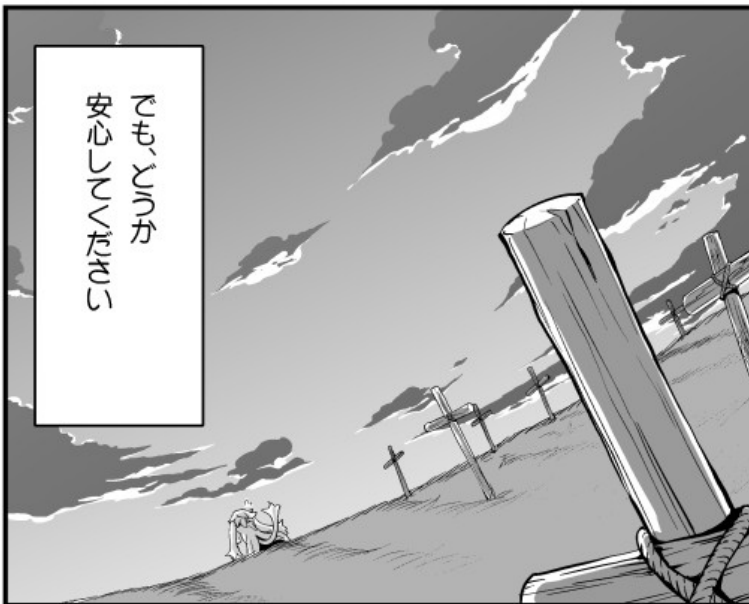
マシユーさんに関しては
「不幸な事故」と言いつ事で
処理されてしまいました

ご主人様のいない世界は寂しくて
孤独に押し潰されそうです

私もいつぞ、ご主人様の元に
行けたらって…
そんな事ばかり考えちゃって
怒られちゃいますね



ええーっ！
もうこんな時間！？
戻らなきゃ！



でも、どうか
安心して下さい

これからは顔を上げて
生きていきます

私の存在自体が
ご主人様が私を愛してくれた
証拠ですから



キ
ュ
ク
ル
の
独
白

ご主人様にとって、私はどう言う存在なのだろう？
研究の助手？

恋人？

ペット……はやだなあ。

私のご主人様を支えてあげられる唯一無二の存在になりたい。

ご主人様の、たまに見せる凄く寂しそうな顔が、私にそう思わせてくれるんです。

でも神様はあまりにも無常で、そんな私のささやかな願いはいとも容易く踏みにじられました。

マシューさんが研究所に来た、あの日に。

正気に戻ったときには、私は紅い海の中一人佇んでいました。

私は抜け殻になってしまったご主人様にすがりついて、泣きじゃくって、そして……踏み込んではいけない領域に飛び込んでしまったんです。

後日、マシューさんの同僚の方が数名、この研究所を訪ねて来られてこう言いました。

「こちらに物資を運びに行って以来、マシューと連絡が取れなくなったのですが、

何か知りませんか？ 河野さん」

いや、知らないな、と首を横に振るご主人様。

私の生活は元通りになっていました。

元通り……十字架を背負って。

急激な促成によって造られたクローンの体は長くは持たない。

この事実気付いたのは、二体目のご主人様が壊れた時でした。

そして私は、ある決断をしました。

三体目のご主人様に全てを打ち明けて、研究の協力を求めたんです。

狂気に身を委ねる私がそこにはいません。

ご主人様は戸惑いを隠しきれない様相でしたが、協力を承諾してくださいました。

しかし問題は解決せず、『クローン人間第三世代の体細胞の劣化』と言うレポートを残し、三体目のご主人様は静かに息を引き取りました。

ご主人様を造るのはこれで何回目だろう？

七体目？ 八体目？

もしかしたら十体以上作ってるかもしれない。

三体目のご主人様が壊れてから、私はクローン人間の延命方法を考えなくなりました。

私が望んだ事とは言え、研究に掛かりきりで相手にされない期間は酷く寂しいものだったから……

ご主人様のそばにいる日常、それが一番幸せなんです。

しかしそれは、ご主人様を造り、結果的に殺すことによって成立される日常。私の精神は既に耐えきれぬものではありませんでした。

このご主人様で最期にしよう。

ご主人様は受け入れてくれるかな。それ以前に、また全てを話す勇気が私にあるのだろうか。ほら、ご主人様の眼が上がってきた。

「おはようございますご主人様。どうかその手で私を……」



【奥付】

Clone Alone

発行者：んめ/GREONE

発行日：2013.12.31

ダウンロード版：2017.1

E-mail：oil-painters@hotmail.co.jp

pixiv：id=3961

twitter：nme_greone

無断転載、ネットへのアップロードは禁止しております。

Reprint is prohibited



GREONE
presents